イスラームの女性たちは世界一お洒落ではないだろうか？

～現在のムスリムファッション事情～

山　本　実　季

目　次

はじめに …… 45

第１章　ムスリムファッションについて …… 46
　第１節　ムスリムファッションとは …… 47
　第２節　ムスリマの間でのお洒落とは …… 50
　第３節　家の中と家の外での服装の違い …… 53

第２章　トレンド《Hipster ではなく Mipster の時代》 …… 54
　第１節　Mipster とは …… 54
　第２節　ムスリムファッションショー …… 55
　第３節　世界と日本におけるムスリムファッション業界の動き …… 56

第３章　保守派・革新派のみかた …… 57
　第１節　様々な意見 …… 57
　第２節　中東と日本における伝統衣装 …… 57

おわりに …… 58

はじめに

ムスリム（イスラーム教徒）と聞くとみんな何を連想するだろうか。無宗教を自覚している個々の割合が高い日本では、イスラーム過激派というごく一部の人たちによって引き起こされた 9.11 アメリカ同時多発テロや日本人拉致事件、またバングラデシュテロ事件に関する報道からムスリムと聞いただけでテロリスト予備軍と疑ってしまう人もいるかもしれない。テロに関する報道は国際社会に大きな衝撃を与え、イスラームへの関心が高まるきっかけになった。

では、ムスリマ（ムスリム女性のこと）についてのイメージはどうだろうか。頭にヒジャーブ（髪の毛を覆う布）を纏い、全身を黒色の布で覆い、服装により抑圧され男女差別の世界で窮屈な生活を送っている女性たちを思い浮かべる人もいるかもしれない。実際に私の周りの人にムスリマへのイメージを聞いてみると、世代を問わず共通の回答は、イスラームについて知識を持っていないからよく分からないが、服装に制限があり個性がないように感じるという意見や黒のヴェールの印象が強く、お洒落に対して閉鎖的にみえる、といったものであった。私は、多くの日本人が抱いているムスリマたちのファッションのイメージとアメリカ留学中に実際に出会ったムスリマたちのファッションの違いに戸惑った。それと同時に、メディアに作り上げられたイメージだけでその国の国民一人一人に対し、善し悪しの判断を許してはいけないと考える。現在、世界が求め続けている国際社会の平和と安定を目指すために、他宗教を理解することは大切な一歩だと私は考える。

本論で注目をしている中東では、イスラームに基づく概念が社会の広域で用いられており、宗教と国の在り方について深い相関関係がある。そのため、イスラームを別世界とし、向き合わない姿勢をとることは、国際理解を深めようとしている日本にとって様々なところで大きなマイナスを生むことが懸念される。アメリカのピューリサーチセンターは 2010 年のムスリム人口は 16 億人を超え、2040 年には 22 億人になる[1)]と発表している。ムスリムの人口の割合は年々急速に成長しており、日本におけるムスリムの在留者や観光客が急増傾向にある。2020 年の東京オリンピック開催を目の前にし、観光立国への成長を目指す日本としても、大きなポテンシャルを秘めているイスラーム市場を無視することはで

1）Pew research center とはワシントン D.C を拠点とする。ここでは問題意識やオピニオンあるいはトレンドに関する調査のシンクタンクである。
http://www.pewforum.org/2011/02/28/resources-on-the-future-of-the-global-muslim-population/
（最終確認日 2016.11.2）

2）2020 年の東京オリンピック開催にあたり、世界は日本に注目している。ムスリムを含めた外国人訪日客数

きない[2)]。ここで重要視されてきているのがインバウンドにおけるムスリムへの対応[3)]である。その対応を充分にするためには、第一にムスリムに対する適切な理解が求められる。

総務省が掲げている多文化共生の推進のためにも、偏見を助長しないように、我々に身近なファッションの分野を取り上げ、その視点から見たイスラームに注目をし、その適切な理解へと導きたい。

第1章　ムスリムファッションについて

ニュースで報道される中東の女性たちは、ヒジャーブをかぶり、アバヤ（全身を覆う布）を着用している姿が多く、どうやって彼女たちはオシャレを楽しんでいるのだろうと未知の世界を連想させる。

しかし、私がアメリカ留学先で出会ったムスリマたちは、みんな信仰心を強くもっていたが、私たちが着ているようなごく普通の服（肌の露出は控えている）を着用し、ヒジャーブのみ纏い、中にはヒジャーブをつけてないムスリマもいた。当時、イスラームについて知識が全くなかった私は、つけなくていいのだろうかと驚いたが、仲良くなるにつれ、どれだけ彼女たちがファッショナブルで美意識が高いのか認識を深めることができた。

2015年のSGIE（State of the Global Islamic Economy）のレポートによると、2020年までにムスリムファッション市場における消費支出額は3,270億米ドルに達し、世界におけるファッション市場のシェアを約17%占めると言われている[4)]。日本を含めた世界中がイスラーム市場に注目しており、東京では2016年11月に日本初となる大きなムスリムファッションショー（ハラールメディアジャパンが主催する「ハラールエキスポジャパン2016」の一環である）が開催され

は今後さらに増えると見込まれており、国内でもマイノリティーに優しい空港、ホテルまた商業施設を目指し、国内の空港（成田、羽田、関西、福岡、那覇空港など）やホテル日航関西空港、イオンモール幕張都心JR西日本は主要駅ターミナルに礼拝室を設置し、ユニクロ・新宿高島屋ではヒジャーブの販売を開始した。

3）ムスリムファッション市場以外にも、ハラール市場も注目されている。一般社団法人ハラル・ジャパン協会の代表理事を務めている佐久間朋宏氏は、「現在、ムスリムを対象とする市場規模は推定300兆円といわれ、2030年までには1000兆円に達するとの経済予測がある」（https://www.foods-ch.com/shokuhin/1456462207575/）と言っている。農林水産省は、2015年までに世界のハラール市場は100兆円を超える市場となることを予測しており2020年までに食品輸出額を1兆円規模に拡大するため存在感の大きいイスラーム市場の攻略は必須と公表している。

4）Dinar standardは成長戦略や有益なグローバル情報を民間企業に対して提供している。この詳細については下のURLを参考にする。
http://www.dinarstandard.com/wp-content/uploads/2015/10/Fashion-SGIE-Report-2015.png
（最終確認日2016.07.17）

た。イスラームといえば、誰もが中東を想像するかもしれないが、実はアジア太平洋地域に最も多く（インドネシア、マレーシア、ブルネイなど）、中東の約３倍の 10 億人が住むといわれており、近年のアジアのイスラーム国家は経済成長と人口増加が著しく有望な市場であり、ムスリムファッションを含めたイスラーム市場は今後飛躍的に拡大していくと予想されている。

英国の The Times によると、去年・今年流行っているロングスカートやカーディガン（図１、図２参照）は、ムスリムファッションからの影響だと言われている。また、ムスリムファッション市場として取り扱われていることや、ムスリムではない人々へのファッションの流行に影響を与えていることや、国や地域におけるムスリムファッションの流行の相違点にも本論では注目したいと思う。

図１　ロングスカート
出典：「Fashion craze」[5]

図２　ロングカーディガン
出典：「Galstyles.com」[6]

第１節　ムスリムファッションとは

ファッションとは、服装や髪形のことであり、自己表現の一つであると考える。では、ムスリムファッションとは何だろうか。髪の毛を覆うアイテムとして使用されるヒジャーブは、ムスリムファッションのシンボルのひとつといえるだろう。ヒジャーブをつけることは、信仰心の表れであり、神様からの教えであると言うムスリマが存在するが、クルアーン（イスラームの聖典とされ、神のことばそのものである）のどの節にも、「女性はマント・ヴェールの着用をするべき」とは一切書かれていない。しかし、そのような理解に促す章句がクルアーン（み光り章 31 節）の中にあるため、それを以下で引用する。

「信者の女たちに言え、かの女らの視線を低うし、貞淑を守れ、外に現れるもののほかは、かの女らの美や飾りを目立たせてはならぬ、それからヴェイルをそ

5）http://newfashioncraze.com/latest-street-style-2016-trends-of-cardigans/（最終確認日 2016.11.14）
6）http://www.galstyles.com/latest-trends-skirt-maxi-dresses-2016-2017-collection/（最終確認日 2016.11.14）

の胸の上にたれよ。己れの夫または父のほかは、かの女の美や飾りを現わしてはならぬ、なお夫の父、己れのむすこ、夫のむすこ、己れの兄弟、兄弟のむすこ、姉妹のむすこ、また自分の女たち、自分の右手に持つ奴隷、また性欲をもたぬ供回りの男、または女のからだに意識をもたぬ幼児のほかは」[7]。

ここで言われている「女のからだ」と訳されている部分についてであるが、これは、アラビア語起源で、見ると恥ずかしいものを意味し、日本語訳では恥部と訳される。では、恥部とは一体どこを指すのであろうか。これ以上の詳しい記述はクルアーンには載っていないため、信者の女性たちに対して書かれている衣装についての解釈は人それぞれであるが、ここでハディース（預言者ムハンマドの言葉や行為など預言者の日常を詳しく記録したもの）の中身に注目したい。

ハディースの中に、ムハンマドの周りの女性は黒い布を着用していたと記録されているため、当時中東に住んでいたムスリムたちはそれが正しいのだと思い込んだのではないかといわれている。現在に至るまで中東では人気のアバヤ（中東の民族衣装）の色が黒であるのもその名残ではないだろうか。女性が黒い布を着用していた理由は長衣を纏う事によって、男性たちが女性たちの姿に誘惑されず、男性を守るため、または女性の魅力的な美しい部分をほかの男性に見させないためなどといわれているが、実はイスラームの成立以前から、気候などに適応した服装として体をすっぽりと隠す服装がなされてきたのである。中東のような日差しがきつい地域では、黒いアバヤは日よけの役割を果たすと共に、砂漠の地で風に舞う砂をよける役割も果たす。アケメネス朝（前 550－前 330 年）の時代、イランでも貴族階級の女性は日頃からヴェール[8]を通して他人と接していたらしい。このことから、ヒジャーブは、上流階級の女性とそうでない女性を見分ける目印のひとつだったといわれている。

現在、インドの大都市ではブルカ（手首・足首以外、頭からすっぽりと覆い隠すもの（図３参照））姿の女性をみかけることが少なくなっている一方で、積極的にブルカを着用する中下層階級の女性がでてきている。その背景として、ブルカ着用をすることにより、自分たちの地位を高めようとする意識が存在している。

東南アジア、南アジア、中東に住んでいるムスリマたちは同じイスラームを信仰しているが、ファッションについて持っている考え方の違いの背景には、それぞれの国の歴史、文化、それ以上に国の政治が深くかかわっているといえる。ここで、イスラームの教えに従い、女性の服装について法律がある二つの国をあげ

7）三田了一訳（1973）『日訳・注解　聖クラーン』日訳クラーン刊行会、376 頁。
8）ヒジャーブはアラビア語でカーテンやヴェールを意味するため、ここでは同じものとして解釈する。

てみよう。

一つめの国は、クルアーンを憲法にしているサウジアラビアである。アバヤとヒジャーブ着用義務があり、外国人だとしてもヒジャーブ着用は法律で決められている。しかし、アバヤの下に着る服にきまりはなく、あの下には私たちが普段着るような服（主に外資系ブランドなど）を着ている。

二つめの国はイランである。外国人・現地人女性と共に、ヒジャーブを着用しなければならないが、ヒジャーブから少し髪をだすギリギリのスタイルがファッションスタイルとして定着している（図４参照）。また、サウジアラビアとは違い、アバヤの着用義務はないが、あまり体のラインがはっきりとしていない服が善とされている。

一方でイスラーム国家であっても、髪の毛を隠すことなく、一般的なファッションをしている女性が多い国もある。トルコとチュニジアでは、以前まで、公用の場でのヒジャーブは禁止されていた。チュニジア出身の女性から伺った話によると、ヒジャーブ姿で学校に行くと中にいれてもらえず、道では、警察に外すよう注意を受けた時代があった。

上述したように、地域によるムスリマのファッションの相違点に大きな影響を与えているのは、各国の政府が厳格にイスラーム法を施行しているかどうかであるといえる。また、現在のムスリムファッションのスタイルに至るまでには様々な考え方、諸説があり、地域によって、流行または人気のスタイルは異なるが共通点は、肌の露出は控えていることといえる。よってムスリムファッションとは、クルアーンの記述に従いながら、自分自身が恥ずかしくない服装をすることであると私は考える。

図３　ブルカ
出典：「wikipedia」[9）]

図４　イランスタイルのファッション
出典：イランで最も人気があると言われている
ブランド「poosh」[10)] の公式 Facebook

9）https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%96%E3%83%AB%E3%82%AB（最終確認日 2016.11.14）
10）https://www.facebook.com/POOSHdesign（最終確認日 2016.11.14）

第２節　ムスリマの間でのお洒落とは

一般的にイスラームでは、身体を見せずに魅力を出すことが本当の美しさを表していると考えられている部分がある。ハディースの中でそのような考えに導く文章は存在するが、昔は貴族やお金持ちがたくさん重い服を着ていて、反対に貧しい人は服をあまり買うことができず、肌が隠れずに見えていたため、肌が見えている人ほど下品という考え方も影響している可能性がある。

では、ムスリマたちのお洒落とは一体何だろうか。毎年ドバイで開かれているBeauty-World Middle East には世界中からビジネスマンが出席する。ドバイ国税局は 2015 年における国内の香水・化粧品部門の総貿易額が 205 億ディルハム（約６兆 1500 億円）に上ると発表していて、ドバイは世界でみてもフランス、アメリカに続く美容市場規模が大きい国である。ここで私は、彼女たちにとってのオシャレを大きく被服・メイク・香水の３つに分けて考察を行う。

①まず被服の一部である、ヒジャーブに注目をする。昔は、色も落ち着いていてバリエーションが少なかったが、近年では、様々なデザインや多色なカラーが展開されており、ヒジャーブをオシャレの一つとしてファッションに取り入れているムスリマも増えてきている。ムスリマの中でもヒジャーブを着用する人としない人に分かれるが、着用している女性たちは気分や服によってヒジャーブの巻き方や色などを変え、楽しんでいる。ヒジャーブの巻き方やアレンジの仕方を説明している動画がたくさん YouTube や Instagram にアップされている（hijab tutorial と検索すると、たくさんのヒジャーブの巻き方やアレンジの動画がでてくる）。東南アジアでは派手な花柄がプリントされているヒジャーブやかなりカラフルなものが多く、ポピュラーである。

また、上述したように中東で人気があるアバヤは黒色であるが、その黒色の濃さなどの細部にまで彼女たちはこだわり、自分らしさを表現している。最近はワンポイントの工夫があるデザインが若い世代に受けていて西洋のドレスの形をモデルにしたもの（図５参照）、金の刺繍でデコレーションされたもの（図６参照）などデザインが多様化している。彼女たちの母・祖母の世代に当たる女性たちは保守的な何も飾りがないアバヤを好み、着用していることから、ファッションはつねに変化し、近代化していることが分かる。

アバヤ着用を義務としてないイスラーム国家では、アバヤ離れが進んでいると懸念され、伝統的価値とライフスタイルの近代化の共存が問題となっているが、ムスリマの中にはアバヤを着用しているときは、おしとやかに振る舞わなければいけないというような気持ちになる人もいる。これについては、どこか日本の着物離れと少し似たものを感じる。現在、着物はお祝い事の際だけに着る伝統衣装

という意識になってきているようにみえるが、着物にはどこからか奥ゆかしさがある。アバヤは、ゴージャスで、エレガントさの主張が強いように見えるが、同時に奥ゆかしさも感じられるものが中東では人気を集めているのだと思う。またインドネシアや東南アジアではとてもカラフルなヒジャーブが人気を集めていて、全体的にキュートな印象を受ける。インドネシアはムスリムファッションの最先端国とも言われているほど、オシャレなデザインのヒジャーブをはじめ、異なる複数枚の布を重ねるなど様々なヒジャーブのアレンジがポピュラーになっていっている。

図５　西洋デザインのアバヤ
出典：アバヤが購入できるオンラインショップ「Kaymu」[11)]

図６　金の刺繍のゴージャスなアバヤ
出典：オンラインショップ「Aliexpress」[12)]

日本のロリーターファッションを取り入れた「ムスリムロリータファッション」も評判を集めている（図７参照）。

②次に被服と同様、出かけるときのみだしなみとして必須となっている化粧について述べよう。ムスリマを全体として見たときに女性の肌が見えず露出部分はほとんどないが、目や顔は隠していない女性も多くいる。化粧をしなくても、目鼻がはっきりとして顔立ちが濃いのだが、さらに見える部分は、と言わんばかりに気合いを入れ、濃いアイメイクと濃い眉毛に仕上げる女性が多い（図８参照）。Epoc Messe Frankfurt（エポックメッセ・フンクフルト）

図７　ムスリムロリータファッション
出典：彼女のブログ「The hijab lolita」[13)]

11）http://www.kaymu.pk/women-abayas/（最終確認日 2016.11.14）
12）https://www.aliexpress.com/w/wholesale-gold-abaya.html（最終確認日 2016.11.14）
13）http://thehijabilolita.tumblr.com/（最終確認日 2016.11.14）

の調査ではサウジアラビアの女性１人あたりの化粧代は一年間で平均 14000 リヤド（およそ 40 万円）となっている[14)]。上述したように、サウジアラビアでは、ヒジャーブは着用しているが、目は隠していない女性も多いため化粧はそれを表現する一つのツールであるといえる。私が出会ったムスリマも、いつも目と眉毛はくっきりとしており、トイレで化粧を直しているところをよく見た。化粧もファッションの一部でありお洒落の一部であるのだ。

③さらに中東と切っても切り離せない強い結びつきがある香水を取り上げる。あの独特のアラビアンな匂いを一度覚えると、忘れることができない。以前、私が知らない男の人とすれ違った際に、あのアラビアンな香水の匂いがしたので聞いてみると、ドバイでは有名な高級香水をつけているとのことだった。

調べてみると、様々な香水専門店の中でも、AMOUAGE というオマーンのメーカーが高級香水店と知られている有名店であり、中には 15ml で 15 万円するものも扱われているとのことだ。できる限り自然な香料を使用していて１つの香水にふんだんにそれらの香料を使用しているため、継続時間が他とは違い、２日間以上良い匂いが続くとオマーン出身の男性が言っていた。

2006 年に湾岸協力会議[15)] で可決された化粧市場の見積額の合計は $800 から $1billion となり、そのうちサウジアラビアが 45％を占め、28％をアラブ首長国連邦が占める結果となった[16)]。この二カ国は、中東の中でもアイメイクの消費がトップクラスである。

また、出かけるときに化粧と同様、身につけるもので必要なものといえばバックである。中東に住んでいる地元の女性たちが持っているバッグの多くは高級ブランドのものである。それは、アバヤで全身が隠れている彼女たちにとって、バッグは自慢できる装飾品であり、見せびらかすことができるからである。バッ

14）AL ARABIA NEWS（2012 年 7 月 11 日）はドバイに会社があるメディア。
http://english.alarabiya.net/articles/2012/07/11/225712.html（最終確認日 2016.10.1）

15）中東・アラビア湾岸地域における地域協力機構のことで、防衛・経済をはじめとするあらゆる分野における参加国間での調整，統合，連携を目的とし、本部はサウジアラビア王国の首都リヤドにある。この組織が設立されたのは 1980 年代のペルシア湾岸地域が危険な時期だった。イラン・イラク戦争は 1980 年 9 月から 88 年 8 月まで約 9 年間続いて、1990 年にはイラクがクウェート侵攻を試み、1991 年の湾岸戦争につながった。不安定な地域情勢が続いたため、湾岸の 6 カ国は GCC の設立を通じて自らの安全を確保しようとした。設立された当初は、集団の安全を守るための意味合いが大きかったが、原油価格の低迷や経済のグローバル化の問題出現のため、経済統合にも力をいれようとし、2010 年末までに統一通貨制度をとりいれようとしたが、現在に至るまで実現していない。2011 年 12 月首脳会議にてサウジ国王が湾岸諸国の脅かされていると判断し、協力（cooperation）から連合（Union within a single entity）の段階へ移行することを提案したが、具体的な進展はいまだ見られていない。

16）世界の美容情報をネット上で提供している CosmeticBusiness が行ったアンケートである。下の URL を参考にする。
http://www.cosmeticsbusiness.com/technical/article_page/making_a_difference__middle_east/49892
（最終確認日 2016.10.1）

グに限らず、時計、サングラス、宝石、靴も同様に、ブランド品を多く身につけており、見えるアクセサリーはとことんおかねをかけるといった印象をうける。中東の女性たちはとても身なりに気を使っておりファッショナブルである[17]。

第３節　家の中と家の外での服装の違い

基本的に家の中では何を着ても良く、アバヤやヒジャーブは皆脱ぐ。女友達の家で開かれる女子会では、皆好みの服やとても派手でゴージャスな服を着る。日本では、外に行くときほど家の中ではお洒落はしないと思うが、中東ではちがうのである。特に、結婚している女性は、家の中ではバッチリ化粧をして気合をいれ、服装も夫のためにとてもセクシーなものを着用していることが多い。美しさは夫だけに見せることがよいとされており、市場やショッピングモールで販売されているランジェリーや部屋着はとても派手で、日本では決して見慣れないデザインのものが中東では当たり前のように売られていて、人気がある。

図８　Anabella Hilal（美人の国といわれるレバノン出身のモデル・テレビのプレゼンター）
出典：「ABU DHABI MEDIA」[18]

サウジアラビア出身の友達が、以前、部屋着の写真を見せてくれたが、ゴージャスでセクシーな服と腰まであるカーリーヘアーの彼女はいつものヒジャーブ姿と比べると別人のようで、海外の雑誌などに載っているセレブかと衝撃を受けた。その時、まるで私はイスラーム圏に住んでいる男性になった気分にもなった。普段、彼女たちの髪の毛を見ることがない彼らは、ヒジャーブの下の彼女たちの素顔を想像してみたりするのだろう。エキゾチックさは彼女たちの一つの魅力であると感じた。家の外にいても中にいても、気を抜かず、お洒落に着飾り、女性としての魅力を最大限に引き出す彼女らは大変美意識が高く、ファッショナブルといった印象である。

17）たとえば、Emma（2010）でも研究されている。
18）http://www.daralakhbar.com/articles/5404574-%D8%A7%D9%84%D9%85%D9%82%D8%A7%D9%84-%D9%85%D9%86-%D8%A7%D9%84%D9%85%D8%B5%D8%AF%D8%B1-%D8%A7%D9%84%D9%85%D9%82%D8%AF%D9%85%D8%A7%D8%AA-%D8%7%D9%84%D9%84%D8%A8%D9%86%D8%A7%D9%86%D9%8A%D8%A7%D8%AA-%D8%AD%D8%B3%D9%86%D9%88%D8%A7%D8%AA
（最終確認日 2016.11.14）

第２章　トレンド《Hipster ではなく Mipster の時代》

ここまで読み進められて、あなたの目には、ムスリマのファッションは不自由で抑圧的と映っているだろうか。それとも、自由で開放的と映っているだろうか。

アメリカのハフィントン・ポストが 2016 年 1 月の記事で、Instagram でフォローするべきファッショナブルな 15 人のムスリマを発表している。メンバーの国籍は豊かでありエジプト出身、アメリカ出身（テキサス、ニューヨークまたロサンゼルスをベースに活動している人が多い）クゥエート出身、イギリス出身のムスリムファッションブロガーたちである。なかには 1 億人を超えるフォロワーから支持を集めているカリスマムスリマブロガーも存在し、彼女たちにとって SNS は大切な情報発信源であり、交流の場となっている。

ハッシュタグで #mipsterz や #muslimfashion と打ち込むと、20 万を超えるポストがヒットする。どの写真のムスリマも、ヒジャーブの色とメイクを合わせ、洋服と上手にコーディネートをし、一つ一つポーズを決めてオシャレを楽しんでいるのである。

第１節　Mipster とは

Mipster とは、Muslim と Hipster をミックスさせて誕生した単語であり、ムスリムファッションをしている女性のことを指す（図 9 参照）。この言葉の誕生のバックグラウンドの一つとして、たとえイスラームを信仰していても同じ女性であり、ファッションを通して自己主張を目的とする彼女たちの想いが伝わってくる。

この Mipster という言葉は 2012 年にできた最近の言葉である。“Somewhere in America”という動画がこの Mipster という言葉がさらに広めるきっかけとなった。その動画とはヒジャーブを纏うムスリマたちがスケボーを乗り回し、一人一人がお洒落な全身コーディネートをして大変ファッショナブルな印象をうける内容だ。Mipster のファウンダー、またそのビデオのディレクターもつとめた Abbas Rattani（アバス・ラターニ）とミップスターである Mariam Dwedar（マリアム・ドウェダー）はイスラーム教徒、つまりムスリムでなくてもムスリムファッションに憧れてヒジャーブをおしゃれに取り入れて「ミップスター」といえばミップスターになることができると言っている[19)]。

19）東京、ニューヨーク、ストックホルムに会社をかまえるデジタルマガジン会社 HEAPS が彼らに取材をしたときのもの。

第２節　ムスリムファッションショー

図９　Mipster
出典：「MVSLIM.COM」[20)]

ファッションショーというと有名なのはパリコレクションのパリコレでないだろうか。しかし、最近、世界中の有名なデザイナーたちやアパレル業界関係者から注目を集めているファッションショーがある。それは、ムスリムファッションショーである。開催地を見てみると、カナダ・トロントやトルコ・イスタンブール、アラブ首長国連邦・ドバイ、また毎年開催されているのはイギリスのロンドン“the urban Muslim woman show”、インドネシアのジャカルタ“Muslim fashion festival”、アメリカのペンシルベニア州“Sister's Recognition Luncheon & Fashion Show”などで行われている。

上述したように、東京で 2016 年 11 月 22 日と 23 日の２日間開かれたムスリムファッションショー（図 10、11 参照）では、エキシビジョンブース、10 に及ぶデザイナーとブランド、産業ネットワーキングセッション、バイヤー＆トレーダーセッションの４つの内容に大きく分けられていることから日本の企業も前向きにイスラーム市場へと着々と歩み寄っているといえる。

図 10　Rina Salleh clothing（マレーシア）
出典：東京で行われたムスリムファッションショーで筆者が撮影

図 11　Sahara Shawl（シンガポール）
出典：筆者が撮影

http://heapsmag.com/muslim-millennials-mipsterz-lifestyle-muslim-hipster-somewhere-in-america（最終確認日 2016.10.24）

20）http://mvslim.com/muslim-hipsters-taking-over-welcome-to-the-world-of-mipsterz/（最終確認日 2016.11.14）

また地域問わず、世界中でムスリムファッションショーが開かれており、ミス・ワールドならずムスリマ・ワールドというムスリムだけのミスコンもインドネシアで開かれ始めた。ムスリムに対する世界の注目度はこれからも高まっていくと期待される。

第３節　日本と世界におけるムスリムファッション業界の動き

ムスリムファッションショーやアパレル関係だけではなく、ナイジェリアではHAYATIというムスリム女性向けの雑誌さえも作られている。ムスリム女性を対象としたブランド競争が激しくなってきており、DKNYやトミーヒルフィガーがカプセルコレクションを発表した。イタリアの高級ブランドのDolce & Gabbanaも2016年1月に「アバヤ」&「ヒジャーブ」コレクションを発表し、地域限定（中東・ロンドン・パリ）で発売を始めた（図12参照）。

日本でも2016年6月にはユニクロでヒジャーブが販売されだし、既にムスリムファッション協会と呼ばれる一般社団法人も設立されている。また、ハラル・ジャパン協会というのもあり、現在の会員企業数は151社に上り、メルマガ登録している人は15,205名[21]と、イスラーム市場に国内の企業も興味関心示していることがうかがえる。

図12　ヒジャーブアバヤコレクション
出典：「MailOnline」[22]

21）サイトより登録した人、またはハラル・ジャパン協会と名刺交換を行った人々に届けている数である。以下のハラル・ジャパン協会のホームページを参考 http://www.halal.or.jp/（最終確認日 2016.10.18）

22）http://www.dailymail.co.uk/femail/article-3386904/Dolce-Gabanna-launches-hijab-abaya-collection-Muslim-customers.html（最終確認日 2016.11.14）

第３章　保守派と革新派のみかた

上述したように、ムスリムファッションは注目されているが、実際にムスリマ全員が、ムスリムファッションに対してポジティブな観点で見ているとは限らない。このファッションは宗教も絡んでいることであるため、彼らの考え方については賛否両論があり、大きく二つの考え方に分けられる。

一つのタイプは、Mipster のようなファッションはアイデンティティーであり文化の一つと考え、どんどん発信をしていくことで、認知に繋がり、イスラーム圏の文化の理解へと導こうとしている。

もう一方のタイプは、ムスリムである以上、アッラーを一番に尊敬するべきであり、宗教・文化を売り物にするべきではなく、ムスリムファッションが伝統と敬虔な文化を失わせていく可能性があると訴える声もある。

第１節　様々な意見

世間ではよく、ヴェール着用は女性を抑圧しているまたは性差別の象徴と思われることも少なくない。しかし、フランスのブルカ禁止法やトルコやチュニジアの公共の場においてのヒジャーブ着用禁止令に対して、ムスリマたちから反発運動が起きているのは事実である。これらを踏まえて、ヒジャーブを纏うことや、全身を覆うアバヤを着るのは、個人の自由であり、チョイスであると私は考える（サウジアラビアとイランを除く）。ヒジャーブを纏わないから熱心なムスリマではないと言い切ることは正しいことなのか。イスラームを信仰し、自身のことをムスリムと思った時点で彼女たちは、れっきとしたムスリムであり、信仰心が一番の美服ではないだろうか。

このムスリムファッションに対して、宗教をビジネスとしてみているという意見やイスラームが西洋化するという意見などの批判する声も少なくない。当然、国や地域、人々によって考え方は違う。しかし、生活には衣服が必ず必要であり、イスラームの教えを尊重しムスリムへの服を作って販売するということには、売る側も買う側も相互理解が必要だと考える。

第２節　中東と日本における伝統衣装

これまで東南アジアや中東、湾岸諸国のファッションの相違点について述べていたが、最近、ムスリムファッション市場は日本の着物にも注目をし始めている。アバヤ離れが懸念されている中東、そして今では普段着として着物を着ている女性を見かけることが断然少なくなった日本では、それぞれ衣服の欧米化が進

み、美しい伝統衣装が失われかけている。着物の首から足首まですっぽりと隠れて体のラインが分かりにくいという点は、実はアバヤに似ている。日本の企業やデザイナーも動き出し、近年、和とアラビアンが融合したアバヤがドバイを中心に販売されるようになった。外務省も、日本ブランド発信事業に力をいれ、2016年５月にはオマーンとドバイへ専門家を派遣しており湾岸諸国のモールで着物アバヤのブランドの店が立ち並ぶのに時間はかからないと予想されている。

着物は、着物のままで、と思う人もいるかもしれない。歴史や文化を大切にしていくことはもちろん重要なことであるが、その時代にあった新しいやり方で世界にインパクトを与え、認知度を上げていくことにも価値があるのではないだろうか。日本の魅力や良さの認識を深めた上でそれを海外に発信していくと、外国人観光客の増加に繋がる可能性が非常に高い。また、中東の地域でのポピュラーなファッションは宗教的観点が影響している部分が多いため、このようにファッション業界を通して、お互いの衣服の文化を共有しようとする姿勢は文化保護そして相互理解に繋がると期待できる。ファッションは全世界共通であり、異文化を理解する大切なツールのひとつだといえる。

おわりに

本論では、個々の宗教を尊重し、今後も増え続けると予想されているムスリム人口に対してよりフレンドリーで生きやすい社会、今後の日本の活性化そして多文化共存の実現を目指すため、世界中で日々新しく生み出されているファッションに視点を置き、ムスリムファッションの背景やトレンドについてふれた。黒色からゴージャスなアバヤへ、またヒジャーブはカラフルで多様なデザインなど、ムスリムファッションも近代化していっていることが分かる。ファッションは宗教、民族そして国籍などにかかわらず共通のものであり、ムスリマたちは、様々な場所、やり方で、彼女たちのファッションを通じ、メッセージを発信し続けていることから、中東の女性は世界で言われているほど閉鎖的ではないことがわかる。また、国や地域により彼女たちのファッションスタイルの違いは、各国の国家の在り方が強く影響をしているといえる。

日本人の中に、イスラーム、または宗教全般に対し、マイナスのイメージを持っている人もいるかもしれないが、今回の考察により、ファッションやトレンドの分析は異文化理解に貢献することが分かった。

ムスリムファッション産業を通し、日本国内そして国外に対して徐々にムスリムへの正しい知識を広げるきっかけを発信していくことは、国際社会にとっても

重要な役割である。

また、ブランドマーケティングをグローバル展開することにあたって宗教的見解も求められる。相互理解を深めていくためにはお互いの歩み寄りが不可欠であるが、ムスリマではない人がムスリマの服を作り売ることやイスラーム市場が大きくなっていっていることについて、ムスリマたちは実際どのように感じているのだろうか。以前、イスラーム圏に住んでいる女性陣、男性陣が思うムスリムファッションについての違いの声を聞いたことがあるが、ほんの一部にしか過ぎないため、生の声を聞くためには、実地調査をする必要があると感じており、今後の研究課題としたい。

《参考文献》

- 磯崎定基，飯森喜助，小笠原良治共訳（1987）『日訳　サヒーフ　ムスリム』日本ムスリム協会
- 大塚和夫，小杉　泰，小松久男，東長　靖，羽田　正，山内昌之（2002）『イスラーム辞典』岩波書店
- 小杉　泰，江川ひかり（2006）『イスラーム　社会生活・思想・歴史』新曜社
- 桜井啓子（2015）『イスラーム圏で働く　暮らしとビジネスのヒント』岩波書店
- 塩尻和子，池田美佐子（2004）『イスラームの生活を知る辞典』東京堂出版
- 島崎　晋（2003）『早わかり「イスラム」』三笠書房
- 白須英子（2003）『イスラーム世界の女性たち』文書新書
- 野中　葉（2015）『インドネシアのムスリムファッション なぜイスラームの女性たちのヴェールはカラフルになったのか』福村出版
- 三田了一訳（1973）『日訳・注解　聖クラーン』日訳クラーン刊行会
- Emma Tarlo, *Visibly Muslim: Fashion, Politics, Faith*, London 2010

《参考 Web サイト》

「外務省：湾岸協力理事会 GCC 概要」
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/page23_000547.html（最終確認日 2016.11.14）
「国土交通省：観光立国推進基本法」
http://www.mlit.go.jp/kankocho/kankorikkoku/（最終確認日 2016.11.14）
「外務省：日本ブランド発信事業」
http://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/pds/page22_001100.html（最終確認日 2016.11.14）
「外務省：日本の安全保障と国際社会の平和と安全」
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kokusai.html（最終確認日 2016.11.14）